

印刷設定

1. 用紙サイズについて	3
2. プリンタの設定	4
2-1. プリンタ設定方法	4
2-2. プリンタ設定手順	5
2-3. ネットワークプリンタへの印刷	5
2-4. 「通常使うプリンタ」の設定による印刷	6
3. 両面印刷の指定	7
3-1. マネージャのジョブユニットのプロパティから両面印刷を指定する	7
3-2. 印刷実行時に両面印刷オプションを指定する	7
4. 位置の指定	9
4-1. 印刷ジョブ単位での位置の指定	9
4-2. 印刷環境での位置の指定	10
5. Windows 印刷環境の問題について	11
5-1. 印刷データの経路	11
5-2. プリンタドライバの選択	11
5-3. リモートプリンタへの印刷	12
5-4. 印刷テスト	12
6. 給紙トレイの指定	13
6-1. マネージャのジョブユニットの編集から給紙トレイを指定する	13
6-2. 印刷実行時に給紙トレイをオプションで指定する	13
7. 排紙トレイの指定	15
7-1. マネージャのジョブユニットの編集から排紙トレイを指定する	15
7-2. 印刷実行時に排紙トレイをオプションで指定する	15
8. 印刷詳細設定	17
9. EOF コード	19
1. ファイルへの出力指定時	19
2. QDF ファイルによる指定時	19
3. オプションによる指定時	19
10. エラーページ	20
1. エラーページだけ印刷される	20
2. 余分にエラーページが印刷される	20
3. 何も印刷されない	20
11. Nup	21
12. QDF ファイル（辞書定義ファイル）	22
13. プリンタ給紙トレイの割り当て (PrintStage)	23
13-1. 概要	23
13-2. 割り当て方法	24
13-3. 割り当て	25

14. Print の活用	26
14-1. 印刷データをファイルに保存	26
14-2. 印刷データをプリンタへ送る	26
14-3. フィルタ登録した専用プリンタ定義を使用する	27

1. 用紙サイズについて

Create!Form で作成可能な帳票の用紙サイズを以下に一覧します。

表：用紙サイズ一覧

用紙名称	ポイント	インチ	ミリメートル
A3nobi	1284 × 930	—	453.0 × 328.1
A3	1191 × 842	—	420.2 × 297.0
A4	842 × 595	—	297.0 × 209.9
A5	595 × 420	—	209.9 × 148.2
A6	420 × 297	—	148.2 × 104.8
B4	1032 × 729	—	364.1 × 257.2
B5	729 × 516	—	257.2 × 182.0
B6	516 × 365	—	182.0 × 128.6
Hagaki	420 × 283	—	148.2 × 100.2
EnvelopeT3	666 × 340	—	235.0 × 119.9
EnvelopeT4	581 × 255	—	205.0 × 90.0
EnvelopeY4	666 × 297	—	235.0 × 104.8
Monarch	540 × 279	7.5 × 3.875	—
Statement	612 × 396	8.5 × 5.5	—
Executive	756 × 522	10.5 × 7.25	—
Letter	792 × 612	11 × 8.5	—
Legal	1008 × 612	14 × 8.5	—
Tabloid	1224 × 792	17 × 11	—
Ledger	792 × 1224	11 × 17	—
free	—	—	—
15 × 11 (inch)	—	15 × 11	—
12 × 11 (inch)	—	12 × 11	—
10 × 11 (inch)	—	10 × 11	—
8.5 × 8 (inch)	—	8.5 × 8	—
9.5 × 4 (inch)	—	9.5 × 4	—
9.5 × 4.5 (inch)	—	9.5 × 4.5	—

EnvelopeT3、EnvelopeT4、EnvelopeY4 はそれぞれ封筒の長形 3 号、長形 4 号、洋形 4 号のサイズです。

free サイズでは、任意の用紙サイズをミリメートル単位で指定することができます。指定可能な最大値は 3527 (mm) × 3527 (mm) です。

free サイズは定形外の用紙サイズを扱う場合に使用します。free サイズでプリンタにない用紙サイズを指定した場合は、用紙切り換えが正しく行えない場合があります。

* × *(inch) の用紙サイズは、ラインプリンタ用の代表的な用紙サイズになります。

2. プリンタの設定

印刷データの出力先が未指定の場合は、Windows で通常使用するプリンタがデフォルトの出力先として使用されます。印刷実行においては、Windows 環境で定義されている複数のプリンタを出力先として指定して印刷を行うことができます。なお、印刷実行時にデフォルト以外の複数の出力先を指定するには、予めその出力先をマネージャの「プリンタ設定」で定義しておく必要があります。

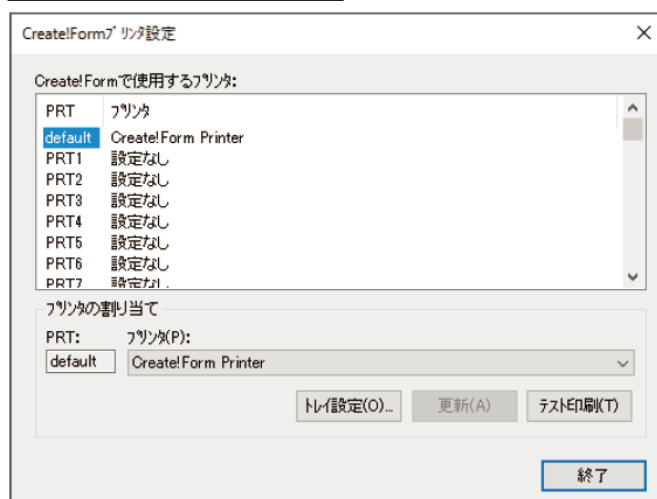
ここでは、このプリンタの設定方法および、印刷実行時の出力先の指定方法について説明します。

2-1. プリンタ設定方法

プリンタ設定方法としては以下の 2 通りの方法があります。

- ・ マネージャのツールメニュー「設定」-「プリンタ」を選択
- ・ マネージャのツールボタン「プリンタ」を選択

図：Create!Form プリンタ設定画面



【Create!Form で使用するプリンタ】

default 及び PRTn として最大 100 個の出力先を定義することができます。

[default]

印刷実行時に出力先の指定がされていない場合に、この“default”の出力先が使用されます。

<< 注意 >>

この [default] プリンタの設定は Windows の通常使用するプリンタの設定とは異なります。そのため、Windows の通常使用するプリンタの設定を変更しても [Create!Form プリンタ設定] へは反映されません。

[PRT1 - PRT99]

ここへ“default”以外の出力先として指定するプリンタを 99 個まで定義することができます。

〔トレイ設定〕

PrintStage ランタイム用の給紙トレイを設定します。

※トレイ設定については後述の「12. プリンタ給紙トレイの割り当て (PrintStage)」をご覧ください。

〔更新〕

〔プリンタの割り当て〕の〔プリンタ〕で選択したプリンタを〔Create!Formで使用するプリンタ〕へ定義します。

〔テスト印刷〕

選択されたプリンタにテストデータを出力します。

<< 注意 >>

このテスト印刷の機能は、PostScript プリンタを選択した場合のみ利用可能です。PostScript 非対応のプリンタでテスト印刷を行った場合は、印刷エラーとなります。

〔終了〕

Create!Form プリンタ設定を終了します。

2-2. プリンタ設定手順

1. [Create!Formで使用するプリンタ] から“default”、または“PRT1”から“PRT99”のいずれかを選択します。
2. [プリンタの割り当て] から設定するプリンタを選択し、[更新] ボタンをクリックします。
3. PostScript 対応プリンタで、テスト印刷を行う場合は、[テスト印刷] ボタンをクリックします。正常に印刷実行が行われると、左下隅 5cm 四方に製品ロゴ文字が印刷されます。

<< 注意 >>

テスト印刷は、PostScript プリンタを選択した場合のみ利用可能です。PostScript 非対応のプリンタでテスト印刷を行った場合は、印刷エラーとなります。

印刷実行時のプリンタ指定方法

印刷実行時のプリンタの出力先指定のオプションは、“-#”です。この出力先指定オプションは、“-#PRT1”のように記述します。

この場合、[Create!Formで使用するプリンタ]の[PRT1]に設定されたプリンタが出力先として指定されたことになります。

2-3. ネットワークプリンタへの印刷

ネットワークプリンタへの印刷は、Windows の印刷設定に依存します。

つまり、Windows からネットワークプリンタへの印刷が可能であれば、Create!Form でも同様にネットワークプリンタへの印刷が可能です。

また、UNIX に接続されたプリンタも Windows から印刷が可能であれば、同様に Create!Form でも印刷可能となります。

ただし、これらのネットワークプリンタへの印刷を行う場合は、事前に Create!Form から [プリンタ設定] を行って、ネットワークプリンタを設定しておく必要があります。

2-4. 「通常使うプリンタ」の設定による印刷

Print ランタイム、PrintStage ランタイム実行時の出力先指定オプションを使用しないで、Windows の「通常使うプリンタ」の設定を使用して印刷実行を行う場合は、QDF ファイルへ以下のパラメータを追加してください。

```
/usewindefaultprinter
```

このパラメータの追加によって、Windows のプリンタ設定で「通常使うプリンタ」に設定されたプリンタへ印刷実行が行われます。

※ QDF ファイルについての詳細はマネージャのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.10 ユーティリティ」-「QDF エディタ」をご覧ください。

<< 注意 >>

このパラメータは Windows 版の Print ランタイム、PrintStage ランタイムに有効です。
UNIX 版でこのパラメータを指定した場合は、警告メッセージが表示されます。

3. 両面印刷の指定

一般的な帳票では片面の印刷がほとんどですが、帳票によっては1枚の紙の表と裏の両面に印刷する場合があります。ここでは、両面印刷の指定方法について説明します。

なお、両面印刷を行うためには、プリンタが紙の反転給紙を行う両面印刷機能に対応している必要があります。

両面印刷の指定方法としては、以下のいずれかの方法があります。

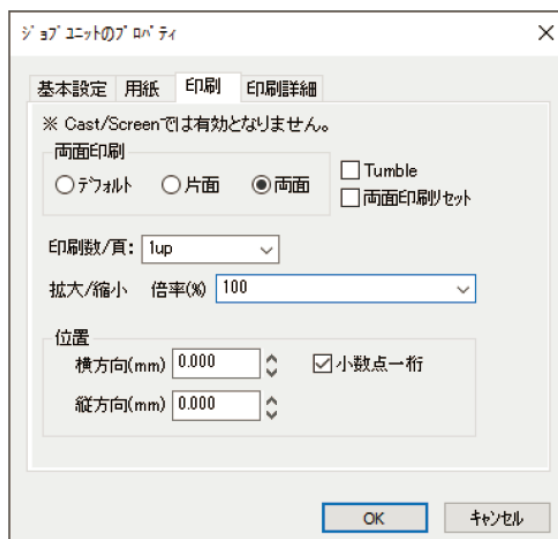
<< 注意 >>

両面印刷の指定については、Print ランタイム、PrintStage ランタイムで有効です。

3-1. マネージャのジョブユニットのプロパティから両面印刷を指定する

ジョブユニットのプロパティ画面の「印刷」タブにある「両面印刷」の項目を「両面」に指定します。

図：ジョブユニットのプロパティ画面（印刷）



3-2. 印刷実行時に両面印刷オプションを指定する

印刷実行時のオプションに「[-Sd]」、「[-Sdt]」、「[-Sdr]」、「[-Sdtr]」のいずれかを指定します。

[-Sd] 両面印刷

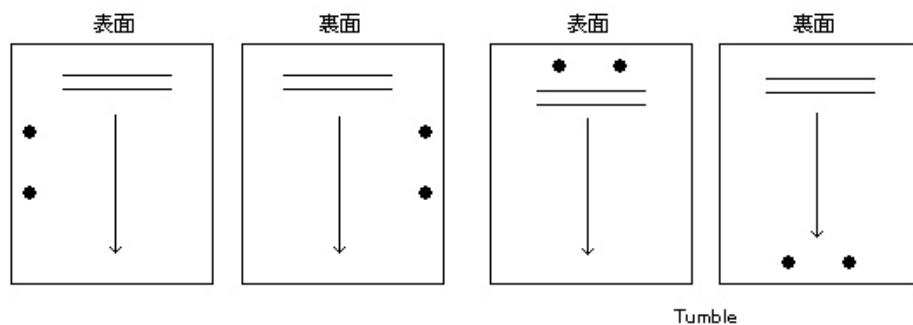
[-Sdt] 両面印刷 (Tumble)

[-Sdr] 両面印刷リセット

[-Sdtr] 両面印刷 (Tumble) かつ 両面印刷リセット

両面印刷には「短辺綴じ」と「長辺綴じ」があり、Tumble 印刷を有効にすると「短辺綴じ」になります。

図：両面印刷 (Tumble)



両面印刷リセットは、ジョブユニットが切り替わった際に有効となります。

両面印刷リセットを有効にしたジョブユニットを印刷した場合、表面で印刷が終了していても、次のジョブユニットは必ず次の紙の表面から印刷されます。

4. 位置の指定

用紙内で帳票全体の印刷位置を縦方向と横方向で指定することができます。単位はミリメートル (mm) で現在の位置からの移動量で指定します。

印刷位置の指定には、印刷ジョブ単位で行う場合と、印刷環境 (プリンタハードウェア) で行う場合があります。

<< 注意 >>

印刷ジョブ単位による印刷位置の指定は Print および PrintStage のみで有効な設定です。

また、印刷環境での位置の指定は Print のみで有効な設定です。

なお、縦方向に関しては、Print と PrintStage で移動方向が異なります。

Print は設定した値だけ上へ、PrintStage は設定した値だけ下へ移動します。

4-1. 印刷ジョブ単位での位置の指定

(適用例)

- ・余白をあまり取らずにレイアウトしてしまった帳票を少し縮小して、用紙の中央へ移動して印刷する。
- ・B4 サイズでレイアウトした帳票を A4 に入る大きさに縮小して位置を整えて印刷する。

印刷位置の指定方法としては、以下のいずれかの方法があります。

1. マネージャのジョブユニットのプロパティから位置を指定する

印刷ジョブ単位での位置の指定は、マネージャのジョブユニットのプロパティ画面の [印刷] タブにある [位置] の項目を設定します。

図：ジョブユニットのプロパティ画面 (印刷)

2. 印刷実行時に位置の指定オプションを指定する

印刷実行時のオプションに [-Smx] と [-Smy] を指定します。

[-Smx] 横方向

[-Smy] 縦方向

位置の指定での「横方向」と「縦方向」はそれぞれミリメートル単位で指定します。

帳票の印刷位置は、指定された値だけ右方向・上方向（マイナスの値の場合は左方向・下方向）に移動して出力されます。

位置の指定オプションは、「-Smx」と「-Smy」です。このオプションに続けて位置の移動量を指定します。

例えば、10mm 上方向に移動して出力する場合は「-Smy10」と印刷実行時のオプションに指定します。

4-2. 印刷環境での位置の指定

（適用例）

- ・開発環境で作成した帳票を運用環境へ移行して印刷した際に、印刷位置が異なってしまった。

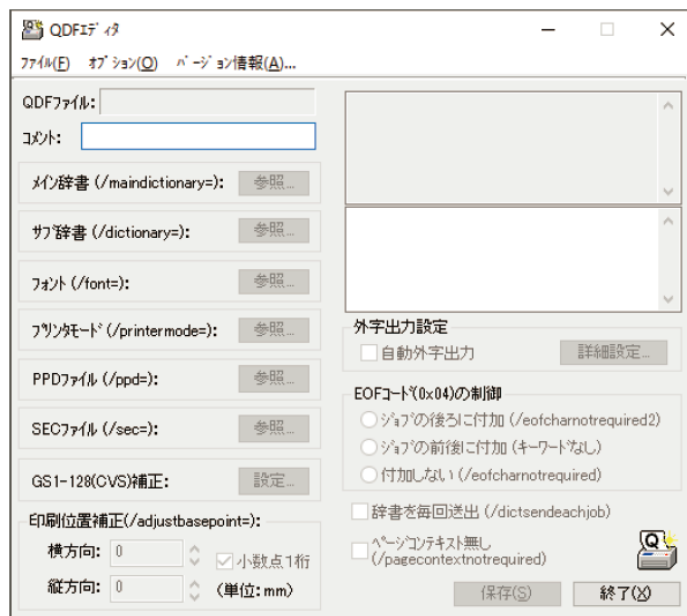
印刷環境での位置の指定を行う場合は、QDF ファイルを使用します。

QDF ファイルに印刷位置を指定しておくことで、その QDF ファイルを指定して印刷実行されたすべて帳票の印刷位置が変更されます。

QDF ファイルへ印刷位置を指定するには、QDF エディタ上の「印刷位置補正 (/adjustbasepoint=)」の項目を設定します。

※ QDF エディタについてはマネージャのメニュー「ヘルプ」-「オンラインマニュアル」から「3. 機能リファレンス」-「3.10 ユーティリティ」-「QDF エディタ」をご覧ください。

図：QDF エディタ



<< 注意 >>

印刷ジョブ単位での位置の指定値は、印刷環境での位置の指定値へ加えられて印刷位置が決まります。

5. Windows 印刷環境の問題について

Print ランタイムが出力した印刷データは、プリンタへ送られる過程の中で、いくつかのソフトウェアやハードウェアを介します。しかし、いくつかのソフトウェアやハードウェアを介した印刷データは、加工されることなくそのままプリンタへ送られている必要があります。以下では、Windows 印刷環境の問題について記述します。

5-1. 印刷データの経路

印刷実行によって出力された印刷データは次のような経路を介してプリンタへ送られます。

ローカル

ランタイム製品 → プリンタドライバ → ローカルポート → ケーブル → プリンタ

プリンタドライバとローカルポート間は、Windows のプリントマネージャによって管理されています。

なお、プリントマネージャを使用しない場合は、印刷データを送出し終わるまで PC が占有されることになります。この接続方法において、最も問題となるのはプリンタドライバです。その他、ケーブルとプリンタとの接続方法です。

リモート

ランタイム製品 → プリンタドライバ → ネットワークドライバ → NIC → ネットワーク環境 → プリンタ

この接続方法において、最も問題となるのはプリンタドライバとネットワークドライバ間の連携です。ネットワーク環境が正しく構築されていても、使用しているプリンタドライバの出力先がネットワークドライバの管理下になっていなければ、印刷データが正しいプリンタへ送られません。その他、プリンタへ送られる前のネットワーク環境で、概して言えばプリントサーバの環境です。この環境にはいくつかの形態が存在します。

最もシンプルな形態としては、直接ネットワークに接続されたネットワークプリンタや、小型のハードウェアプリントサーバを利用したネットワークプリンタです。これらの形態では比較的印刷環境に問題はありません。しかし、PC ベースのネットワークによるプリントサーバ等では、印刷データを加工しない設定になっている必要があります。正しく印刷実行が行えない場合は、プリントサーバの設定内容を十分に確認してください。

また、UNIX ベースのネットワーク環境のプリンタを利用する場合も設定内容は十分に確認してください。他にも、プリンタを新たに UNIX ホストへパラレルで接続した場合に正しく印刷されない場合は、プリンタケーブルと接続方法を十分に確認してください。

5-2. プリンタドライバの選択

ランタイム製品によって生成された印刷データは、Windows プリンタドライバに対して出力されます。プリンタドライバは、印刷データの最初の出力先となり、ここでは印刷データの加工は行われず、次の出力先へのパイプの役目を果たしています。通常は、Windows のコントロールパネルのプリンタに PostScript のプリンタドライバが設定されていれば、正しく印刷実行されます。もし、印刷実行の際にエラーメッセージが表示されて正しく印刷が行われない場合は、マネージャの [プリンタ] から Create!Form で使用するプリンタを変更してください。マネージャの [プリンタ] から Create!Form で使用するプリンタを変更する場合、使用しているプリンタのプリンタドライバでなくても PostScript プリンタのドライバであれば問題ありません。Windows には標準でいくつかの PostScript プリンタドライバが用意されており、

PostScript プリンタドライバの多くは、PS という名称が付加されています。

なお、マネージャの [プリンタ] で設定した内容は、他のソフトウェアの印刷実行には影響しません。

5-3. リモートプリンタへの印刷

Windows 環境にて Print ランタイムからリモートプリンタへ印刷実行する際には、ネットワークの印刷環境を正しく設定する必要があります。完全なネットワークプリンタの場合は、そのプリンタ名がネットワーク端末名として登録されているため、問題なく印刷実行が行えます。しかし、プリンタドライバの接続先（ポート）がネットワークドライバ（出力先がネットワークヘリダイレクトされる）で管理される場合、プリンタドライバの出力先のポートに出力先のプリントサーバのホスト名およびプリンタ名が指定されている必要があります。ネットワークの印刷環境が正しく設定されている場合は、UNIX ホストに接続されたリモートプリンタ、または PC のネットワークに用意されたプリントサーバのリモートプリンタへも印刷実行することが可能です。

5-4. 印刷テスト

マネージャの [Create!Form プリンタ設定] から Create!Form で使用するプリンタを定義することができます。

なお、定義されたプリンタは印刷テストを行うことで、印刷可能かどうかをテストすることができます。

印刷テストは以下の手順で行います。

1. マネージャのツールメニュー [設定]-[プリンタ] を選択します。
2. [Create!Form で使用するプリンタ] から印刷テストを行うプリンタを選択します。
3. [テスト印刷] ボタンをクリックします。正常に印刷実行が行われると、左下隅 5cm 四方に製品ロゴ文字が印刷されます。

6. 給紙トレイの指定

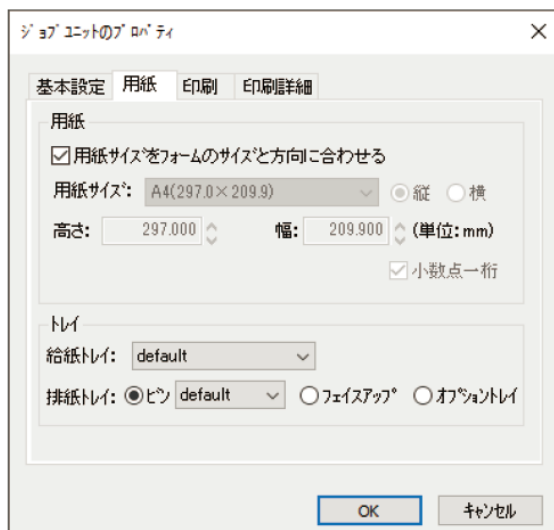
通常は給紙トレイの位置に関係なく、用紙サイズで指定した用紙の準備されているトレイが使用されます。しかし、複数の給紙トレイに同一サイズの用紙が準備されている場合などは、給紙トレイの指定を行う必要があります。

給紙トレイの指定方法としては、以下のいずれかの方法があります。

6-1. マネージャのジョブユニットの編集から給紙トレイを指定する

マネージャのジョブユニットの編集画面の「用紙」タブにある「トレイ」の項目を設定します。

図：ジョブユニットの編集画面（用紙）



給紙トレイを「給紙トレイ」の項目から指定します。

6-2. 印刷実行時に給紙トレイをオプションで指定する

印刷実行時のオプションに「-St」を指定します。このオプションに続けて給紙トレイ番号（1-6）を指定します。例えば、トレイ番号3を給紙トレイに指定する場合は、「-St3」と印刷実行時のオプションに指定します。

この指定によって、印刷実行時は強制的に指定したトレイから給紙が行われます。

<< 注意 >>

給紙トレイの数やトレイリストのトレイ番号が実際にどのトレイと対応しているかは、プリンタに依存しています。そのため、トレイ番号が上から順に1, 2, 3と割り当てられていない場合があります。

※トレイ番号の詳細については、プリンタに付属のマニュアルをご覧ください。

なお、Print ランタイムを実行したときに給紙トレイの指定を行っても正しく給紙が行われない場合、QDF ファイルにプリンタ機種ごとの PPD ファイルを指定する必要があります。プリンタ機種ごとの PPD ファイルについては、各プリンタメーカー様よりダウンロードを行ってください。

なお、ダウンロードした PPD ファイルについては、QDF エディタの PPD ファイルの項目から指定することができます。

印刷実行時に QDF ファイルを指定するオプションは [-q] です。[-q] に続いて指定する QDF ファイル名を指定してください。例えば、QDF ファイル名 [sample.qdf] を指定する場合は、[-qsample.qdf] と印刷実行時のオプションに指定します。

7. 排紙トレイの指定

排紙トレイの設定を行うことができます。

排紙トレイの指定方法としては、以下のいずれかの方法があります。

<< 注意 >>

ここで説明する内容は、Print ランタイムでのみ有効な設定項目です。

※ PrintStage ランタイムで排紙トレイを指定したい場合は、プリンタドライバで指定してください。

7-1. マネージャのジョブユニットの編集から排紙トレイを指定する

マネージャのジョブユニットの編集画面の [用紙] タブにある [トレイ] の項目を設定します。

図：ジョブユニットの編集画面（用紙）

ジョブユニットのプロパティ

基本設定 用紙 印刷 印刷詳細

用紙

☒ 用紙サイズをフォームのサイズと方向に合わせる

用紙サイズ: A4(297.0×209.9) 縦 ☒ 横 ☐

高さ: 297.000 幅: 209.900 (単位:mm)

☒ 小数点一桁

トレイ

給紙トレイ: default

排紙トレイ: ☒ ピン default ☐ フェイスアップ ☐ オブジェクトトレイ

OK キャンセル

排紙トレイを [排紙トレイ] の項目から指定します。

7-2. 印刷実行時に排紙トレイをオプションで指定する

印刷実行時のオプションに [-So] を指定します。このオプションに続けて排紙トレイ番号 (0-24)、フェイスアップ (a)、オプション (b) を指定します。例えば、トレイ番号 3 を排紙トレイに指定する場合は、[-So3] と印刷実行時のオプションに指定します。

[-So0] default トレイ

[-Sox] 番号が付与されたトレイ ※ x は、1 から 24 のトレイ番号を指定します。

[-Soa] フェイスアップトレイ

[-Sob] オブジェクトトレイ

フェイスアップトレイとは、印刷面を上向きにして排紙するトレイです。

この指定によって、印刷実行時は強制的に指定したトレイから排紙されます。

※トレイ番号の詳細については、プリンタに付属のマニュアルをご覧ください。

なお、排紙トレイの指定を行っても正しく排紙されない場合、QDF ファイルにプリンタ機種ごとの PPD ファイルを指定する必要があります。プリンタ機種ごとの PPD ファイルについては、各プリンタメーカー様よりダウンロードを行ってください。

ダウンロードした PPD ファイルについては、QDF エディタの PPD ファイルの項目から指定することができます。

印刷実行時に QDF ファイルを指定するオプションは [-q] です。[-q] に続いて指定する QDF ファイル名を指定してください。例えば、QDF ファイル名 [sample.qdf] を指定する場合は、[-qsample.qdf] と印刷実行時のオプションに指定します。

8. 印刷詳細設定

印刷詳細設定により、特殊なトレイの指定、用紙の種類、ホチキス止め等のプリンタが持つ固有の設定を行うことができます。

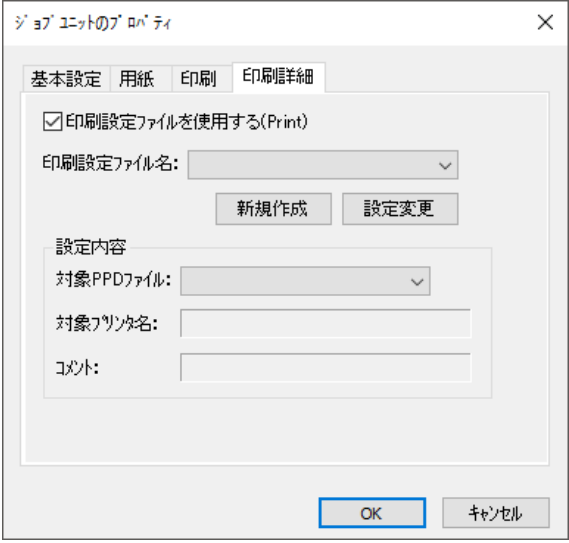
<< 注意 >>

ここで説明する内容は、Print ランタイムでのみ有効な設定項目です。

※ PrintStage のプリンタの給紙トレイ設定については後述の「12. プリンタ給紙トレイの割り当て (PrintStage)」をご覧ください。

印刷詳細設定を行う場合は、マネージャのジョブユニットのプロパティ画面の「印刷詳細」タブの項目を設定します。

図：ジョブユニットのプロパティ画面（印刷詳細）



印刷詳細設定を行う場合は、「印刷設定ファイルを使用する」にチェックを入れ、「対象 PPD ファイル」の項目を選択してください。

「対象 PPD ファイル」の項目を選択すると、「対象プリンタ名」が表示されますので、内容が正しいか確認してください。なお、対象 PPD ファイルは QDF ファイルで指定した PPD ファイル名と同一にしてください。

印刷詳細設定を新規に作成する場合は、「新規作成」ボタンをクリックします。

また、印刷詳細設定の設定を変更する場合は、「印刷設定ファイル名」を選択後に「設定変更」ボタンをクリックしてください。

※ 「印刷設定ファイル名」は「対象 PPD ファイル」を選択後に表示されます。

図：印刷詳細設定画面

マネージャのジョブユニットのプロパティ画面の「印刷詳細」タブにある「新規作成」ボタンまたは「設定変更」ボタンをクリックすると、印刷詳細設定画面が表示されます。この画面から印刷詳細設定を行います。

「詳細設定項目」から設定項目をクリックすると、右側のリストへ設定値が表示されます。設定を変更する場合は、設定値を選択します。
※設定済みの詳細設定項目には先頭に「*」が付加されます。

詳細設定終了後は、「保存ファイル名」および「コメント」を入力して「保存」ボタンをクリックしてください。

※詳細設定項目に表示される設定項目は、プリンタの PPD ファイルによって異なります。詳細については、プリンタに付属のマニュアルをご覧ください。

※「保存ファイル名」および「コメント」に利用できる文字は、半角英数字、記号、JIS 第 1 水準漢字、JIS 第 2 水準漢字となります。

<< 注意 >>

印刷詳細設定を行うと、設定した情報をユーザー設定（共通）フォルダの「styppt」フォルダに保存します。

ユーザー設定（共通）フォルダはマネージャの「ヘルプ」－「バージョン情報」－「バージョン情報詳細」で確認できます。

UNIX 等の別環境で使用する場合は、必ず別環境にある「styppt」ディレクトリにバイナリ転送を行ってください。なお、トレイ指定や両面印刷等において、特に問題がなければ印刷詳細設定を行う必要はありません。

また、印刷詳細設定を行う場合、マネージャのジョブユニットのプロパティ画面にある以下の設定項目は必ず「デフォルト」に設定してください。

- ・「用紙」タブ トレイ設定
- ・「印刷」タブ 両面印刷設定

9. EOF コード

EOF (End Of File) や EOT (End Of Text) と呼ばれるコード (04h:16 進の 04) がありますが、これはデータ処理（一般には通信上）において一つのデータの終了を表しています。PostScript プリンタに対しては、EOF コードはジョブのクリアを実行させます。プリンタは EOF コードによって、今まで行っていた処理を完全に終了し、処理前の状態に戻します。例えば、何らかの異常データが溜まっている状態のプリンタに正常な印刷データを送る場合、印刷データに先立って EOF コードを送出しておけば、異常データはクリアされ、印刷データを確実に印刷することができます。

なお、QDF ファイルのオプションから EOF コードの付加を制御することができます。オプションが未指定の場合には、印刷データの先頭と最後に EOF コードを付加した印刷データを生成します。オプションの指定方法は以下の通りです。

1. ファイルへの出力指定時

“-o” オプションによるファイルへの出力時は EOF コードの付加はありません。

2. QDF ファイルによる指定時

EOF コード (0x04) の制御

“ジョブの後ろに付加 (/eofcharnotrequired2)” 印刷データの最後に EOF コードを付加する。

“ジョブの前後に付加 (キーワードなし)” 印刷データの先頭と最後に EOF コードを付加する。

“付加しない (/eofcharnotrequired)” 印刷データに EOF コードを付加しない。

3. オプションによる指定時

印刷実行オプション

“-w1” 印刷データに EOF コードを付加しない。

“-w2” 印刷データの最後に EOF コードを付加する。

オプション指定なし 印刷データの先頭と最後に EOF コードを付加する。

以上のそれぞれのオプション指定方法において、優先順位は以下の通りです。

(高) ファイルへの出力指定時 > QDF ファイルによる指定時 > オプションによる指定時 (低)

<< 注意 >>

UNIX 環境において、PostScript ビューア等を使用する場合は、EOF コードの付加は行わないでください。また、ネットワークプリンタ環境において、EOF コードが付加されていると、印刷が正しく行われない場合があります。このような場合は、EOF コードの付加を行わない設定を使用してください。

EOF コードの付加は、印刷環境に応じて適切に使用してください。

10. エラーページ

Print ランタイムにおいて、印刷処理が正常に行われない場合、エラーページが印刷されることがあります。

場合によっては、正常に印刷されていても、エラーページが余分に印刷されていたり、何も印刷されない場合があります。

エラーページが印刷されてしまう原因について以下に説明します。

1. エラーページだけ印刷される

用紙の中央下の位置の網掛けボックスにエラー文字が記述されたエラーページが印刷された場合は、Print ランタイムから出力されたエラーページです。

エラーの内容は英文で記述されており、以下のようなエラーページが存在します。

- ・ フォームがダウンロードされていない

指定した Form ファイルが作業ディレクトリに存在していないため、Print ランタイムからエラーページが出力されています。

Form ファイルが正しく作業ディレクトリに存在しているか確認してください。また、Job ファイルに登録されている Form ファイルや Form ファイルから参照されているサブフォームの存在を確認してください。

- ・ 初期化が行われていない

初期化を行わずに、QDF ファイルなしの印刷データを処理しようとしたため、Print ランタイムからエラーページが出力されています。

QDF エディタにて [辞書を毎回送出 (/dictsendeachjob)] 設定を有効にして印刷実行を行ってください。

2. 余分にエラーページが印刷される

帳票は印刷されているが、余分にエラーページ（網掛けボックスではない）が印刷される場合です。これは、EOF コードを受け付けない印刷環境において、EOF コードの付加を行っているためエラーページが印刷されている可能性があります。

QDF エディタにて [EOF コード (0x04) の制御] を [付加しない (/eofcharnotrequired)] 設定を有効にして印刷実行を行ってください。

3. 何も印刷されない

印刷データはプリンタへ送られているが、印刷が実行されない場合です。

これは、Print ランタイムが印刷データを出力してからプリンタに印刷データが送られるまでの間に、印刷データの加工がされている可能性があります。主に、ネットワーク環境のプリンタ等で起こりやすい現象です。

プリンタに印刷データが送られるまでの間に、印刷データの加工が行われていないか確認してください。

11. Nup

1 枚の用紙に 1 ページ（標準）か、縮小して複数ページをレイアウトして印刷実行する方法を Nup 印刷といいます。

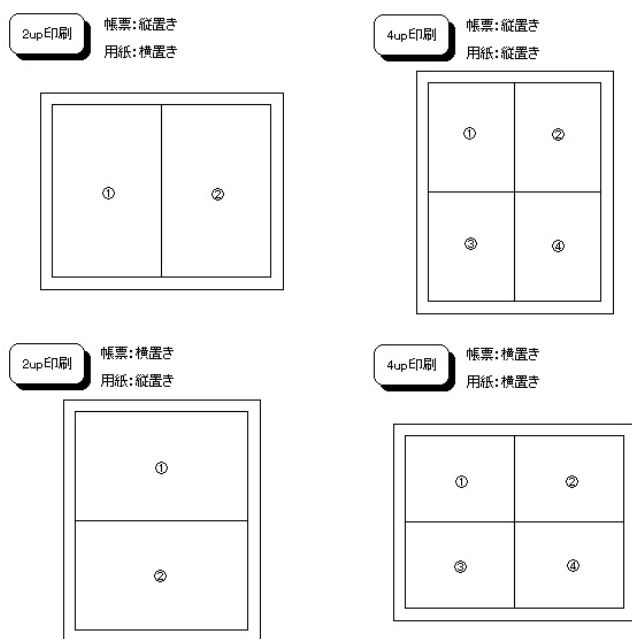
なお、この Nup 印刷は Print ランタイムでのみ有効です。

プリンタによっては、Nup 印刷をプリンタ側の機能として用意している機種もありますが、ここではプリンタ機種に依存しない Create!Form の機能による Nup 印刷について説明します。

Nup 印刷は、マネージャのジョブユニットのプロパティ画面の「印刷」タブにある「印刷数 / 頁」の項目を設定します。

Create!Form の Nup 印刷では、1up、2up、4up の設定に対応しています。

図：Nup 印刷



縮小率は縦横共に均一です。印刷頁のレイアウト（順序）は図に示す通りで、変更指定には対応していません。

Nup 印刷はプリンタに依存することなく指定可能ですが、出力時に使用する QDF ファイルに Nup 用サブ辞書が設定されている必要があります。

設定は以下の手順にて行います。

1. マネージャのツールメニュー「ツール」から「QDF エディタ」を起動します。
2. QDF エディタのツールメニュー「ファイル」-「開く」で対象の QDF ファイルを開きます。
3. 「サブ辞書」に「nup」が記述されているか確認します。
4. 「nup」が記述されていない場合は、「サブ辞書」の項目にある「参照」ボタンをクリックし、「nup」を選択します。
5. 「保存」ボタンをクリックして QDF ファイルを保存します。

Nup 印刷の印刷実行オプションは「[-Sn]」です。「[-Sn]」に続けて指定するページ数（1, 2, 4）を記述します。例えば、4up 印刷の指定は「[-Sn4]」と印刷実行時のオプションに指定します。

12. QDF ファイル（辞書定義ファイル）

プログラムフォルダには拡張子が [.qdf] という QDF ファイル（辞書定義ファイル）が存在します。

プログラムフォルダはマネージャの [ヘルプ] - [バージョン情報] - [バージョン情報詳細] で確認できます。

この QDF ファイルには、印刷ジョブや印刷環境に合わせた印刷データを生成するための各種設定が記述されています。印刷実行において問題が発生した場合は、この QDF ファイルの内容を変更することで問題を回避できる場合があります。QDF ファイルにはいくつかのキーワードやパラメータが存在しており、これらは QDF エディタ上から設定を行います。なお、この QDF ファイルには標準 QDF ファイル (default.qdf) というファイルがプログラムフォルダに用意されています。この標準 QDF ファイルは、標準的な印刷ジョブを想定した印刷データの制御設定が記述されています。また、この QDF ファイルは任意で作成して印刷実行時のオプション [-q] で指定することが可能です。この [-q] オプションは省略することも可能で、省略した場合は標準 QDF ファイル [default.qdf] が印刷実行時に使用されます。

※ QDF ファイルの詳細についてはマネージャのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.10 ユーティリティ」-「QDF エディタ」をご覧ください。

13. プリンタ給紙トレイの割り当て (PrintStage)

13-1. 概要

PrintStage ランタイムでは、プリンタごとに給紙トレイを割り当てることが可能です。

この機能を利用すると、PrintStage ランタイムの給紙トレイの設定 (10 パターン) へ各プリンタが独自に持っている給紙トレイを自由に割り当てることができます。

これによって、印刷運用環境のプリンタが変更されてトレイの名称が異なった場合でも、PrintStage の資源ファイルの設定や上位プログラムが影響を受けることなく、給紙トレイの設定を変更することができます。

例：印刷対象プリンタをプリンタ A からプリンタ B に変更する場合

Create!Form 給紙トレイ	プリンタ A 給紙トレイ	プリンタ B Input_Tray

トレイ 1	第 1 トレイ	MANUAL (手差し)
トレイ 2	第 2 トレイ	UPPER_TRAY
トレイ 3	第 3 トレイ	MIDDLE_TRAY
トレイ 4	-	LOWER_TRAY
トレイ 5	-	-
トレイ 6	-	-
テサシ	手差しトレイ	MANUAL_2
トクシュ 1	-	-
トクシュ 2	-	-

この時、Create!Form でトレイ 1 からの出力設定としている場合は、プリンタ A では第 1 トレイ、プリンタ B では手差しから出力されます。

プリンタ給紙トレイ割り当て機能では、例えばプリンタ B に対して以下のような給紙トレイの割り当てに変更することができます。

Create!Form 給紙トレイ	プリンタ B Input_Tray

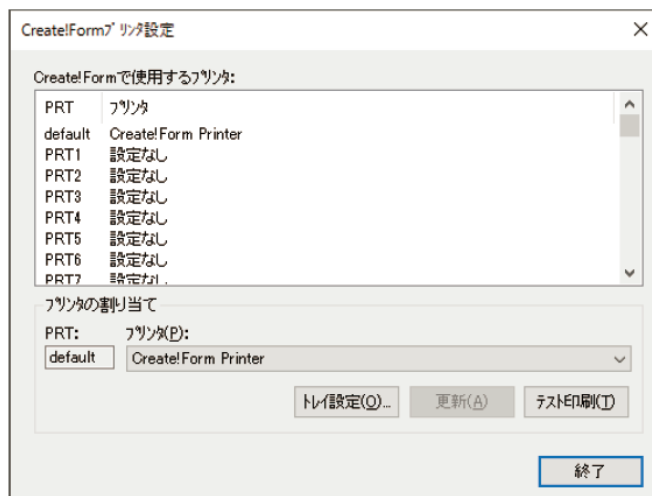
トレイ 1	UPPER_TRAY
トレイ 2	MIDDLE_TRAY
トレイ 3	LOWER_TRAY
トレイ 4	-
トレイ 5	-
トレイ 6	-
テサシ	MANUAL (手差し)
トクシュ 1	MANUAL_2
トクシュ 2	-

[MANUAL (手差し)] 設定から [UPPER_TRAY] 設定に変更することで、プリンタ B でも通常の給紙トレイである [UPPER_TRAY] から給紙されます。

13-2. 割り当て方法

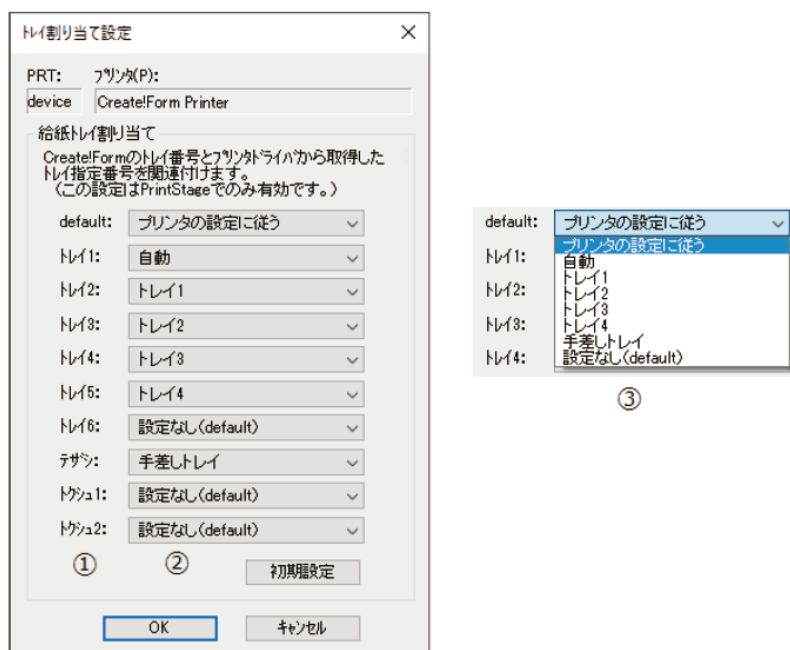
給紙トレイの割り当ては、マネージャのツールメニュー [設定]-[プリンタ] を選択します。

図：Create!Form プリンタ設定画面



[Create!Form で使用するプリンタ] より給紙トレイの割り当てを行うプリンタを選択し、[トレイ設定] ボタンをクリックします。

図：トレイ割り当て設定画面



- ① Create!Form の給紙トレイ設定で選択可能なトレイ名
- ② 現在割り当てられているトレイ名
- ③ 対象プリンタのドライバから取得したトレイ名

13-3. 割り当て

②より、割り当てを行うトレイ名を選択します。

割り当て設定が完了したら、[OK] ボタンをクリックして保存します。

※この時点ではまだ割り当て設定が確定していません。確定するためには、Create!Form プリ
ンタ設定画面の[更新] ボタンをクリックしてください。

<< 注意 >>

給紙トレイの割り当て設定は、Create!Form 導入環境の設定ファイルに保存されます。

そのため、帳票開発環境 (Design) と運用環境 (PrintStage) の導入環境が異なる場合は、
それぞれの環境で給紙トレイの割り当てを行う必要があります。

14. Print の活用

Print ランタイムの利用とは、Print ランタイムの本体に帳票資源ファイルとデータファイルを与えて実行し、PostScript の印刷データを出力するということです。

この印刷データの出力先を特に指定しない場合は、標準出力へ出力されます。しかし、出力先を任意に指定することでプリンタへ出力したり、ファイルへ保存したりすることもできます。

出力された印刷データをプリンタへ送ることは、UNIX システムの印刷環境に依存しており、それは使用している UNIX システムと利用形態によって異なります。

以下に Print の活用方法について説明します。

14-1. 印刷データをファイルに保存

Print ランタイムが生成した印刷データをファイルとして保存することができます。

ランタイムの導入が完了した環境であれば、以下のコマンドをプログラムフォルダの「doc」フォルダで実行することでテストすることができます。

```
cprint readme.txt > readme.ps
```

このコマンドを実行し、正常に実行された場合は、約 38KB の PostScript の印刷データファイル [readme.ps] が生成されます。このファイルはそのまま PostScript プリンタへ送ることのできる印刷データになります。また、このファイルをプリンタへ送った場合は、左下隅に製品名称が記述され、[readme.txt] の内容が 1 枚のページに印刷されます。

14-2. 印刷データをプリンタへ送る

Print ランタイム実行コマンドによって標準出力へ出力された印刷データを、パイプを経由してプリンタへ送ることができます。出力先となるプリンタ（プリンタ定義、プリントキュー）へは出力データを PostScript プリンタへそのまま通す（パススルーする）必要があります。もし、プリンタ定義に PostScript 印刷データを加工してしまうフィルタが登録されている場合は、正しい印刷結果を得ることができません。フィルタが何も登録されていないか、PostScript フィルタが定義されているプリンタ定義であれば問題ありません。既に出力先となるプリンタ定義が用意されている場合は、サンプルデータを使用した次のコマンドを実行することができます。

- ・ BSD 系 UNIX の場合（lpr コマンド）

```
cprint readme.txt | lpr -P プリンタ名
```

- ・ SystemV 系 UNIX の場合（lp コマンド）

```
cprint readme.txt | lp -d プリンタ名
```

これらは前述 1 のファイルに保存した印刷データファイルをプリントコマンドで印刷することと同じですが、中間的な印刷データを残す必要がない点が異なります。

14-3. フィルタ登録した専用プリンタ定義を使用する

フィルタコマンドを組み込んだ帳票専用プリンタ（プリンタ定義、プリンタキュー）を作成して、プリントコマンドで実行する方法です。この方法は、SystemV 系 UNIX の `lp` コマンドに `cprint` をフィルタとして登録し、通常の `lp` コマンド実行のようにオプションとテキストデータを引数に指定して印刷実行を行うものです。帳票専用プリンタを作成後は、以下のコマンドを実行することができます。

```
lp -d プリンタ名 -o-sptest readme.txt
```

※ `-o` はフィルタにオプションを渡すための `lp` コマンドに対するオプションです。プリンタ名はデフォルトとして登録する場合は記述する必要はありません。この方法と前述 2 で説明した方法は印刷においては全く同じですが、利用形態が通常の `lp` コマンドのように利用できる点で異なります。これは例えば、`lp` コマンドの `-c` または `-n` オプションを利用する場合などです。※ `-c` オプションを使用した場合、指定ファイルはスプール領域へコピーされ、ファイルは削除されます。`-n` オプションは実行を繰り返し、複数部数の印刷を行います。

前述 1 の方法は、新しい帳票を作成した場合の動作テストとしての実行に向いています。実行に失敗した場合は、エラーが表示されます。

前述 2 の方法は、最も簡単に印刷実行を行う方法で、全ての UNIX 環境で実行できます。設定に関しても非常に分かりやすく、シェルを介すことで柔軟な設定も可能となります。

前述 3 の方法は、全ての UNIX 環境では行うことはできず、SystemV 系 UNIX では `lpadmin` による管理環境が必要となります。設定を行うにはある程度のプリンタ管理の知識が必要になります。

Create!Form 11

印刷設定 第2版

発行日	2018年8月
発行者	インフォテック株式会社
	〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-5-25